

## 「関数実践編」 講座開発への想い



以前は、複雑なデータ加工や膨大なデータ集計を「技術」ではなく、「力技」で乗り切っている人が多かったのですが、これでは無限残業を発生させる上、ミスも減りませんでした。

いま、「力技」は『1つ前の時代の遺物』と見做されるようになっていきます。代わりに働き方改革の波に乗り高らかに導入されつつある「新システム」や「RPA・AI」。これは担当者の仕事を本当に「簡単」にするのか。

いいえ。本当は「複雑さ」は何も変わっていないのです。

我々に本当に必要なのは「力技」でも「新ツール」でもなく、本物の「理解」と「技術力そのものの向上」なのです。

### 「複雑」なものが「簡単」になるという幻想。

日本社会では、「働き方改革」の名のもとに、「業務効率化をしよう！」という号令が日々強まっていることは、どの企業においても実感されていることでしょう。様々な企業様から効率化のご相談をいただいたり、また、具体的なコンサルティングを実施させていただくことが多い私からみても、明らかに各企業様において「業務効率化」への強い意気込みや、まさに「本気だぞ」という気概を感じます。

しかし企業の皆様に接する中で、一つだけ、私の「業務効率化」の考え方から言って、疑問に思えることがあります。

それは、「業務効率化のために新しいツールやシステムを導入すれば、効率化は成功する。」と思いついでいる企業があるのではないか、ということです。つまり、「便利なツールや便利な新システム（例：RPAやAI？など）を導入すれば、複雑な業務を簡単にしてくれるだろう！そうすれば、人は、いらなくなるではないか！」という、誤った思い込みを持たれているのではないかと、ということです。

私は「業務自体の『複雑性』は、ツールやシステムの導入によってどこかへ雲散霧消するわけではない。」と考えています。

中学・高校で習う「エネルギー保存の法則」は「エネルギーが状態を変えたり移動をしても、系の内部において、ひとりでに生じたりなくなったりはしない。」というようなことですよ。

会社の業務の「複雑性」もこれと同様です。たとえ、多様なシステムが導入され自動化ツールが企業の髓まで浸透したとしても、その状態は、複雑性が「何かのツールやシステムやプログラムとして封入」されただけであり、結果的にそのツールやシステムの運用者つまり「誰か」に複雑性が負荷されている状況にまったく変わりはありません。

### 複雑性は「業務プロセス修正の都度、すぐ顔を出す」。

「担当者が毎週同じことを繰り返しているなあ。」という「ルーティーン業務」に見えることでも、実際はルーティーンではありません。

- ・「中間データを提供するシステムが変更され、データの列数が変わってしまい、加工のプロセスが大きく変化する」
- ・「上長が変わり、報告する際のレポート内容が大幅に変更されてしまう」
- ・「会社の合併や分離で、集計に必要なデータが発散し、バックオフィスプロセスが複雑化する」

など、小規模～大規模の「プロセス変更」が日々余儀なくされています。

そういう状況にあっては、『最高にクールで便利！』なツールも『世界シェア No.1！』のシステムも、「導入時の状態」のまま使い続けることは決してできず、1年と保たず「プロセスの修正」が求められるわけです。このとき、「ツールやシステムに封入したはずの複雑性」は、「担当者」に跳ね返ってきます。担当者は、現状の処理のどこをどのように直すべきかという問題にどうしても取り組まざるをえなくなる。どこかの誰かが、勝手に修正後のプロセスを完成させてくれるわけではありません。

このように「複雑性」というボールを、「ツールやシステムの内部」にいくら押し込んだつもりでも、プロセス変更という箱を開けた瞬間に、必ず「担当者」という人間に思いっきり跳ね返ってくる。

**複雑性は、消えない。誰かが必ずその複雑性を扱わなければならないのです。**

だから、「複雑性」をシステムに閉じ込めてどんなに蓋をしても、結局は、その業務の担当者は、「その複雑なプロセスでどんな計算が行われているか、どんなデータをどのように加工しているか」ということをきちんと理解できていなければなりません。どんなにシステムに複雑性を転嫁しようと、担当者の頭の中が「簡単」な作りで、処理も理解しておらず、「とりあえずこのボタンをポチッと押せば自動的に仕事は終わるんだ。わあ、すごいなあ。」では業務を担っていくことはできないのです。『責任ある担当者』たる者は、この自動化の時代こそ、「複雑性」から「こわい」と顔を背け逃れることはできないのです。

ここまで整理した上で、Excel ラボの自動化への考えを述べます。

それは、「**複雑なものを扱える能力を担当者が身につけることでしか、業務の自動化は達成できない**」というものです。

つまり、担当者の頭の中を「複雑」なものを扱えるように、レベルアップさせるべきなのです。担当者というものは、「おっ。マシンやシステムが複雑なことを頑張ってくれてるねえ！何やってるか知らないけど。」と、システムに全てオマカセというわけにはいかない。

冒頭の、「企業は、今、業務効率化にホンキで取り組んで」という話に戻すと、『自動化』運動は、担当者にとっては「単純化」ではなく「複雑化」なのです。（自動化が進んでいないときは、手作業で一生懸命時間を掛けて、足りない条件分岐は、なんとなく脳内補完しコピペでごまかしてきたプロセス。その曖昧さを排除し、しっかりと正確に条件分岐や除外条件などを理解していないと自動化メカニズムが組めないのが当然ですね。）

結局のところ、私達は以前より遥かに増大したデータの海で、素早くそのデータを加工して仕事を終えなければいけないわけで、大量データの扱いや複雑な集計に、以前より圧倒的に強くなっていく必要があるわけです。

Excel 業務に話を絞ると、幸いなことに、Excel においてはきちんとしたカリキュラムで学習すれば、核となる自動化ノウハウをかなり高度なものまで明快に理解していくことが可能です。自動化を達成するためのやや上級のノウハウを使いこなせば自動化の局面に必要な解決の手を打てるようになります。

『Excel ラボ関数実践編』は、応用編の内容を前提とし、さらに多数の関数や関数技法を理解し身につけることによって「自動化」ノウハウに習熟できるように開発しました。仕事があんなに複雑化しても、人間はその複雑さを扱う力を身につけることができます。大量データの扱いや自動化のノウハウや着想も、1つ1つが比較的普遍的で汎用的に使えるものであり、Excel 業務に限らず様々な局面でアイデアや理解の助けとなるため、今後の自動化時代を生き抜くための力になります。

## 完全自動化時代の『業務』の変質と、新しい時代の『プロフェッショナル』

ツールやシステムが複雑化した場合、「その複雑さを扱う人間の能力」がそれに負けないように成長しなくては、業務効率化は絵に描いた餅となり瓦解します。**業務というのは、「ツールやシステムが在りきで勝手にシステムが仕事をしてくれる」ものではないです。**

**「業務を理解した担当者がまず在る」**わけで、「わかり続ける」ために「複雑な処理」を理解する担当者あり続けなくてははいけません。

複雑性を負うのは、以前なら、よそのコンサル？システム部の人？つまり、外部の人で良かった。けれどそれは1つ前の時代。

今、企業が取り組んでいる自動化というものは、つまり「新しいシステム」を使うわけですが、結局のところその結果、複雑な処理・集計がシステムのユーザーつまり「担当者」の業務そのものになってしまうということなのです。

大量データの時代、そして完全自動化の時代では、業務が変質し、「業務」単体に習熟していれば良かった担当者が、「業務に加え、複雑な大量データ処理プロセスの理解」の両方が溶けて混ざった状態の「新『業務』」をこなせなくてははいけません。

システムやツールは、既に高度化したものが導入されてしまっているから、複雑さの箱が今にも開き、担当者にボールが直撃する場面がすぐに訪れます。プロフェッショナルである担当者は、どんな業務についてもこのシステムに封入されていてそこからある日飛び出してきた「複雑さ」を理解しどう扱うべきか思考できる術を身につけておかなければはいけません。

『Excel ラボ関数実践編』では、Excel で、この複雑な自動集計を行えるように、無数のノウハウを学び、プロフェッショナルとしての強い力を養成していきます。複雑さに怯まず、業務効率化を遂行できる『責任あるプロフェッショナル』となるように一緒に頑張っていきましょう。

# 『Excelラボ(関数実践編)』(全8h)

～完全な自動化を達成するための関数テクニックを学ぶ応用編の上級に位置するトレーニング講座～



## 「関数実践編」コンセプト

「応用編」の正統な流れを組む、より上位の『関数に特化した講座』。

Excel ラボ「応用編」ノウハウを前提として各項目の復習を行いながら「やりたいこと」や「Excelの自動化」を自由を実現するトレーニングを積むとともに、「関数」と「機能」を駆使するための膨大なノウハウとテクニックを身に付ける。Excel レベル 5 以上の高い応用力を養っていく講座。実務現場で上司や先輩に賞賛されるような「動く Excel」を作っていくための百花繚乱の自動化テクニックを学ぶ。

Excel ラボのノウハウが詰まったプロフェッショナル養成講座。(目標レベル：6)



## 講座の概要・対象イメージ

### 対象イメージ・対象レベル

【参加前提条件】 Excel ラボの応用編受講済レベル必須。

応用編ご参加済みの方は、応用編の内容を復習いただければ大丈夫です（特に SUMIFS や条件付き書式）。

- ・『Excelでの自動化』のノウハウ・アイデアを身につけたい方。自由自在に行えるようになりたい方。
- ・INDEX・MATCHと呼ばれる重要テクニックを習いたい方。
- ・OFFSET や INDIRECT などの実務での使い方を知りたい方。
- ・応用編の内容を実務現場で使いこなすため徹底的に関数のトレーニングを行いたい方。
- ・データタイプについて疑問点が残っており、さらに挙動を正確におさえたい方。
- ・「ワイルドカード」を使用した関数パターンを一度整理したい方。
- ・Excel2016 までの関数を使い「ユニーク化」を行う手法を整理したい方。
- ・テーブル化（構造化参照）した領域に対する関数の掛け方を整理しておきたい方。
- ・Excel 自動化の担当者になる方。Excel のプロになりたい方。



## 「関数実践編」よくあるご質問



### 質問

Excel ラボ「応用編」を受けていれば、「関数実践編」に付いていただけますか？



応用編の内容である「SUMIFS・COUNTIFS」「データタイプ変換」「条件付き書式」「テーブル化」の理解を前提として進んでいきますので、この部分を直前に1～2周復習してからご参加ください。

応用編を復習されていれば、十分についてくることができます。関数実践編は、操作感も含めて、妥協が無い緻密な講座であるため必ずさらなるレベルアップと定着がのぞめますので一緒に頑張りましょう！



## 質問

Excel ラボ「関数実践編」を受ければ  
Excel の「自動化」を達成できるようになりますか？



関数実践編では、自動化の際に必要な不可欠となる「INDEX・MATCH」「INDIRECT」「OFFSET」「メジャー法」「ワイルドカード」などの関数・ノウハウを学習します。これらのうち1つでも欠けていたならば、自動化の際「これをやりたいのに、できない。」という状況にぶつかる可能性があるでしょう。

逆に、私が Excel の自動化を行う際には、これらのテクニックが至るところで組み合わせさせて登場します。各テクニックをしっかりと使いこなせるレベルまで講座の中でガッチリと解説及びトレーニングしますから、「自動化」の際の必要不可欠な Excel 力を身につけることができます。「1つ変えただけで、集計が終わるような Excel ファイル」を関数と一緒に作りましょう！必ず活躍できます。



## 講座カリキュラム

### 『関数実践編』 講座カリキュラム (全 8 h)

#### 第 1 章 応用編からの発展

- ・ TRUE 型 VLOOKUP
- ・ 設計・実装・運用
- ・ 他シート参照とシート間操作トレーニング
- ・ 回生の INDIRECT
- ・ 関数実践の文字列操作関数 (FIND・LEN・TRIM 等)
- ・ 【関数技法】 ワイルドカード
- ・ テーブル化とショートカット

#### 第 2 章 実践関数と自動化のための関数技法

- ・ VLOOKUP の欠点の研究
- ・ <実務サンプル> 前期比較 1
- ・ INDEX・MATCH の理解
- ・ 一次元 INDEX と、二次元 INDEX
- ・ OFFSET 関数の理解と単一 OFFSET・領域 OFFSET
- ・ <実務サンプル> 前期比較 2
- ・ 【関数技法】 メジャー法とユニーク化
- ・ COUNTIFS メジャー
- ・ ROWS メジャー
- ・ <ハイレベル> 前期比較 2

#### 第 3 章 データタイプの決定タイミングと データタイプ変換機能

- ・ 区切り位置機能
- ・ データタイプ決定タイミングと後付けラベルの失敗
- ・ CSV ファイルとテキストファイルウィザード

#### 第 4 章 最新の Excel 紹介

- ・ 新世代の Excel、PowerQuery の紹介 (紹介のみ)
- ・ スピル挙動と動的配列関数の紹介 (紹介のみ)

ご予約お早めに

直近の講義日程は  
コチラ！

ラボ講義日程

